

令和5年度 第1回学校関係者評価委員会の実施及び改善策について(報告)

【実施日】令和5年9月5日(火) 10:50~12:00 【参加した評価委員数】5人

屋久島町立中央中学校

(欠席2人)

評価(委員記述) A(良い:課題なし) B(おおむね良い:課題有り) C(改善の必要有り:課題有り)

項目	番号	評価の観点	資料及び取組状況	評価 (1人未記入)	改善策
学校 評価 の 方法	1	自己評価は学校教育目標を重点化した設定となっているか。	自己評価書資料	A 4人, B 1人	●保護者アンケート内容の見直しを図り,より適切なアンケートを実施する。  ●学校関係者評価の在り方について見直しを図り,欠席者がなくなるような事前準備を行う。  ●今回の評価結果の公表についてもホームページで公表する。
	2	自己評価は全校体制で定期的実施されているか。	各学期1回実施	A 3人, B 2人	
	3	自己評価の結果を踏まえた適切な改善が図られているか。	自己評価書資料 各学期学校経営案	A 4人, B 1人	
	4	自己評価項目の内容・量は適切か。	自己評価諸資料	A 3人, B 2人	
	5	生徒・保護者へのアンケートは適切か。	生徒・保護者・教職員アンケート	A 2人, B 3人	
	6	学校関係者評価の在り方は適切か。	年間2回	A 4人, B 1人	
	7	評価結果をわかりやすくかつ広く公表しているか。	HP, 学校便りで公表	A 4人, B 1人	
自由記述		・ ありがとうございます。			

意見交換内容

評価委員からの意見等	学校からの回答
<p>○ コロナが5類引き下げになった後の生徒の動きはどうか。</p> <p>○ 子どもの成長を感じる。声をかけてくれる。不登生の状況はどうか。</p> <p>○ 不登校生にどのように声をかければよいか。難しく感じる。情報を知りたい。</p> <p>○ 学力を上げる必要がある。</p> <p>○ 進路選択については</p> <p>○ 理科のグループ活動でお互いの信頼関係があることを感じた。英語の授業の分け方は。</p> <p>○ 落ち着いた授業。表情はよかった。高校と同じ雰囲気だった。特徴として家庭が安心するのが地域との連携。多角的な視点でみんなで見守る。高校の不登校生は横ばい。希望した進路に進むことが要因。学校に来てくれさえすれば,なんとか卒業までもっていける。塾がないことで,入学後,学力を伸ばすことができる。</p>	<p>○ 大きな変化はない。部活動は平常通り。平常日,休日1日部活なし。大会にも参加</p> <p>○ 継続の生徒がほとんど。新規の生徒は改善が見られる。小学校からの生徒は解消できていない。親の考え方で学校に来られない生徒もいる。</p> <p>○ 個に応じた対応をとるしかない。学びの場は学校だけではない。社会性の低い生徒もいる。学校だけでは対応できない。地域の助けや関係機関との連携も必要。</p> <p>○ 取り組み次第で伸びる可能性はある。</p> <p>○ 本人の希望がつよい。今年の卒業生は高専2名があり,特色になっている。</p> <p>○ 2,3年生は英語,数学で対応している。実態や希望をふまえてわけている。2年英語,数学は同質で分けている。3年英語は習熟度で分けている。3年数学は2クラスを3つコースの習熟度に分けている。</p>